

## [ 巻 頭 随 想 ]

### 「日本ブドウ・ワイン学会」25周年記念大会に寄せて

#### — 甲州種の現在 —

熊切顯夫

国産ぶどうの中で主要な白ワイン用原料品種が「甲州種」であることは周知のとおりです。最近の DNA 鑑定結果から甲州種は、欧州系品種の遺伝形質を受け継いでいることが知られています。中央アジアのコーカサス地方からシルクロードを越えて、紀元前 128 年頃、漢の武帝の時代に中国に伝えられたという説があります。

日本における甲州種の発祥をめぐっては、古来より 2 説の伝説があり、718 年の大善寺説と 1186 年の雨宮勘解由説です。いずれにしても、今から 1300 年から 800 年前にもさかのぼります。江戸時代前期の「本朝食鑑」には、すでに日本一の産地として甲州（現山梨県）が記されており、甲州ぶどうが江戸に向け出荷され、昔から生食用として親しまれて来ました。

山梨県の甲州種を使ったワイン醸造は、明治の文明開化、殖産興業の象徴として 1870～71 年甲府に住む山田、詫間両氏が醸造を始めたという記録が残っております。本格的にワイン醸造を始めたのは、祝村（現勝沼町）で 1879 年のことでした。その 2 年前 1877 年大日本葡萄酒（株）が設立され、本場のワイン造りを修得するため高野正誠、土屋龍憲の 2 青年がシャンパーニュやブルゴーニュ地方で学び、帰国後、甲州種を使ってワイン造りを始めた話は有名です。今から 130 年以上の歴史が存在しております。しかし、明治の殖産興業策で山梨県ばかりに醸造所ができたのではなく、現在、日本全国にワイナリーが在るがごとく、北海道、新潟県、埼玉県、栃木県、茨城県、長野県、群馬県、神奈川県、愛媛県、兵庫県、岡山県、石川県、山形県などにも醸造所が出来、甲州種の主要産地であった山梨県が中心的な役割を担って現在まで継承されてきたわけです。

マンズワイン（株）が設立されたのは、1962 年で、1964 年から製品出荷が始まりました。当時、1965 年の日本全体の果実酒の出荷量は、約 4,000 KL 弱で甘味果

実酒は約 35,000 KL 強と甘口の甘味果実酒の全盛の時代でした。マンズワインは、ドイツの醸造技術を取り入れ、フレッシュ&フルーティな甲州種ワインを醸造し、全国に甲州種の名前を広める一翼をになってきました。東京オリンピック、大阪万博とあいまって、その当時をワイン時代の幕開けとも言われております。その後、第一次（1971～73 年）、第二次（1978～81 年）、第三次（1987～89 年）、第四次ワイン成長期（1994～98 年）を経て、現在、国産ワイン課税数量は約 8 万 KL 強で、山梨県の課税数量は全国の 3 割強となっております。

この間、産学官の協力により、ここまで発展してきており、現在は、「山梨大学における醸造技術者の育成」、「山梨大学主催ワインゼミナールの開催」、「ASEV 日本ブドウ・ワイン学会の活動」、「国産ワインコンクールの実施」「東京・山梨等での新酒祭りの実施」等があげられます。現在注目されている動きは、山梨県ワイン酒造協同組合で行っている国、県の補助事業である「甲州ワイン EU 向け輸出プロジェクト:KOJ」です。このプロジェクトには、15 社が参加いたしました。世界の和食ブームに合わせて、和食に合う日本固有品種の甲州種ワインを輸出していこうというものです。本年 1 月ロンドンでプロモーションが行われ、県知事をはじめ総勢 36 名が参加し、日本大使館でのテイスティング会（200 名参加）が開催され、非常に好評で、オファーがあるほどであったとのこと。また、ワイナリーによっては、独自に甲州種の輸出を始めたところもあります。

しかし、甲州種ぶどうの確保が年々難しくなっており、原料面での将来に対する不安がでております。平成 5 年には約 14,000 t の甲州種の生産量があったものが、平成 18 年には半分の 7,000 t となってしまっております。醸造用には、約 2,500 t が向けられ、その他は生食用、観光ぶどう園向けとなっております。ぶど

う栽培者の高齢化、後継者不足、生食用他品種への植え替え等で年々10 ha づつ減少していると言われております。甲州種ぶどうの減少をくい止め、十分な量の確保ができるような施策を産学官協同で早急に行っていく必要にせまられているのが現状です。

日本ブドウ・ワイン学会は、1984年11月に設立総

会が行われ、1985年が初めての年度大会でした。今年度の大会は、25周年記念大会として、アメリカ親学会よりの招待者をお迎えし、11月19日（金）ベルクラシック甲府にて行うことになりました。ぜひ、多数の出席者のもと、記念大会を盛り上げていただきたく、宜しく願い申し上げます。

(マンズワイン(株)代表取締役社長)

■甲州ブドウの栽培面積・生産量・醸造仕向量データ

